

協会けんぽの決算見込み(医療分)について

<協会会計と国の特別会計との合算ベース>

平成 29 年 7 月 7 日
全国健康保険協会

<全体の収支状況>

- 平成 28 年度は収入(総額)が 9 兆 6,220 億円、支出(総額)が 9 兆 1,233 億円となり、収支差は 4,987 億円となりました。

<収入の状況>

- 収入(総額)は前年度から 3,802 億円の増加となりました。主に「保険料収入」が 3,681 億円増加したことによるものですが、これは保険料を負担する被保険者の数が 3.5%増加したこと、被保険者の賃金(標準報酬月額)が 1.1%増加したことにより保険料収入が増加したことが要因です。(賃金の増加については、制度改正(標準報酬月額の上限引上げ)の影響が 0.5%含まれており、被保険者の賃金水準の上昇分は 0.6%です。)

<支出の状況>

- 支出(総額)は前年度から 1,268 億円の増加にとどまりました。
- 支出の 6 割を占める保険給付費(総額)については、前年度から 1,790 億円増加していますが、前年度からの伸びが+3.3%と、27 年度の伸び(+6.3%)と比較して鈍化しました。これは、診療報酬のマイナス改定等により、28 年度の加入者 1 人当たりの医療給付費の伸びが鈍化(27 年度:4.4%→28 年度:1.1%)したことが主な要因となっています。
- 支出の 4 割を占める高齢者医療に係る「拠出金等」については、前年度から 494 億円の減少となりました。これは、総報酬割の拡大(1/2→2/3)、退職者医療制度の新規適用の終了(26 年度末)といったこれまでの制度改正影響のほか、精算による減額など、複数の要因が重なった結果、一時的に減少したものです。

<収支差と準備金残高>

- この結果、28 年度の「収支差」は、前年度から 2,534 億円増加しました。これは、保険料収入等の収入の増加に対し、診療報酬のマイナス改定や制度改正等の一時的な要因が重なった結果、支出額の増加が小さかったことなどによるものであり、こうした傾向が今後も継続するものではない点については、十分留意が必要です。
- なお、法令上、協会は保険給付費や拠出金等の支払いに必要な額の 1 ヶ月分を準備金として積み立てなければなりません。28 年度決算(見込み)時点においては、2.6 ヶ月分の準備金を確保できる見通しです。